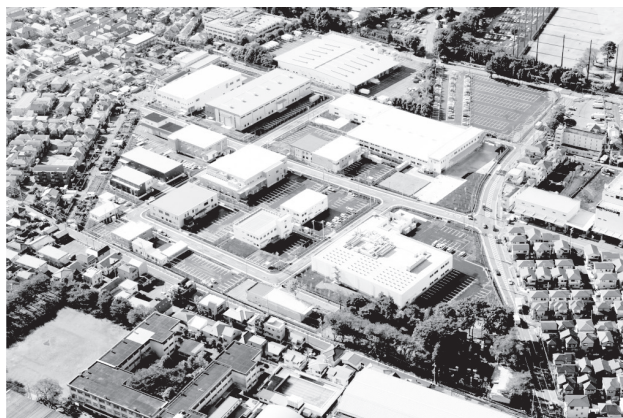


会員建築作品紹介



協同組合 S i a 神奈川

20世紀に地場産業として活躍した6.3haのゲイマーぶどう園は、産業の形態を変えつつ21世紀型の生産施設産業を中心とする中小企業16社が集結し、20棟（合計延べ面積、約30,000㎡）の工業団地として蘇った。



今からさかのぼること4年半前にフランス人のゲイマー氏とお会いした折りに、地場産業を消すことなく、新しい形で産業の継承を続けさせて欲しいと熱く語りかけた。

生産施設関連会社の中小企業が集団化し公的融資を受ける『高度化事業』の仕組みを説明し（勿論、国際弁護士の通訳が入った会話である。）理解を何度となく求めた。その時点においては、どんな企業が集まるのか集められるのか何も見えていない状態である。しかしながら、そのたび重なる熱意がゲイマー氏に伝わって私どもの提案するプロジェクトに賛同を頂いた時は1年が経過していた。



早速、相模原市長、相模原商工会議所会頭、我々日創設計と蔵設計のJVにコンサルタントを加え四者間においてプロジェクト推進の合意書が取り交わされた。すぐに企業を集める作業に入った。多くの人に協力をいただきながらではあるが作業は難航した。それでも1年位でその骨格は見えてきた。

その骨格ができた頃から、中小企業基盤整備機構と神奈川県事業審査に入り、その審査は毎回、協

横浜支部 岡本 堯久

同組合に対しての意識改革と各企業の事業計画等の見直し指導を受け、並行して計画設計も変更しながらの連続であった。厳しいまでの審査は5回に亘って約1年かけて行われた。そして、16社の団結が『協同組合 S i a 神奈川』として発足できた。

最終審査を通過でき、機構と県の「事業認定」が下りた。引き続き農林水産省の農地転用、県の条例等の許可、市の開発許可、そして建築確認申請と進めることができた。然しながら、市街化調整区域の開発許可は市の経済局の支援があったものかなり難題だった。並行して、近隣住民への説明会が幾度にも及んだ。「工業団地」のイメージが即、公害発生源と見られ一部に開発反対意見も出たが、一つ一つ丁寧に説明に回って、最終的には、こちら側の誠意を感じて頂いたと判断している。地域に約2,000㎡の公園も提供できた。



16社の建物も様々である。精密機械関連工場、印刷関連工場及び半導体関連工場のクリーンルーム、医療関連工場のバリデーション、食品関連工場のハセップ等々建築・設備関連は幅が広い。

それでも皆の力が結集し、試行錯誤を繰り返しながら平成21年11月に16社20棟の建物は『協同組合 S i a 神奈川』のロゴマークである『16個のふさを付けたぶどうのマーク』と共に新たな産業革命のスタートを切った。

当事業の見込みがついた頃であったが、ゲイマー氏がカタコトの日本語で「岡本さん達はいいい仕事をしていますね。」と云われた言葉に胸を熱くした。